

SSH通信

これからの行事

- 2021/1/4(月)~25(月)
みやぎのこども未来博 有志生徒
(オンライン)
- 2021/1/23(土)
プラズマ・核融合学会 有志生徒
(オンライン)
- 2021/1/29(金)~30(土)
東北サイエンスコミュ 有志生徒
ニティ
- 2021/1/30(土)
海洋教育フォーラム 有志生徒
(オンライン)

令和元年度第二回SS講演会

2020.1.30 (木)

(今年度前半の休校措置のため掲載できなかったものです) 全学年生徒

● 講演会に参加して

今回のSS講演会では東北大学で認知心理学と科学技術社会論を専門とされている山内保典准教授にお越し頂き、「これからどうする？人工知能のある未来」という演題でご講演して頂きました。多様な価値観の中でどのような未来を共に創っていくのか、AIのある未来はどのようなものなのか、などについての内容でとても興味深いお話でした。私自身、今回の講演会に参加する前まではAIについて漠然としたイメージしかなく、深く考えた事はありませんでした。しかし、今回の話し合いを通じてAIのメリット・デメリットも詳しく知ることができ、AIの普及には様々なリスクもあるものなのだ、と感じました。この先ますますAIについての話題が増えていくことと思います。私たち一人一人が主体的にAIと向き合っていくことが、今後重要になってくるのではないのでしょうか。

(昨年度1年普通科 川原諒成)



わくわくサイエンス

2020.8.8 (土) 全学年生徒

● 地域との交流を通して

● わくわくサイエンスについて

私は8月8日に行われたわくわくサイエンスに参加しました。イベントの内容は空気砲や身近なもののpHを調べる実験とフェイスガードの製作を小学生と一緒にやるというものでした。準備は各実験のシナリオ作成から始まり、全員で試行錯誤しながら進めていきました。当日は小学生に楽しんでもらえるよう互いに協力しあいながらイベントを進行させることができ、また、小学生との交流を通じ、教えることの難しさや醍醐味を味わうこともできました。コロナ禍の中でも、地域のために自分達にもできることはあるのだと実感することができました。この経験を忘れずに、何事にも積極的に行動していきたいと思えます。

(2年普通科 中澤彩加)

8月8日、「ワクワクサイエンス」に参加しました。わくわくサイエンスは小学校低学年～中学年の皆さんに向けて、理科の面白い実験を体験してもらおうイベントです。今年はコロナの関係で、開催日の短縮、参加人数の制限などで万全の対策をしながらの開催となりました。今回行ったのは、フェイスシールド作り、空気砲の実験、pHの実験の3つでした。私の担当は空気砲の実験でしたが、想像以上に小学生たちも楽しんでくれていたようでとても嬉しかったです。また、空気砲を行うに当たり、最初に小学生の皆さんに実験の結果の予想をしてもらいました。小学生ならではの面白い発想が沢山出てきて、教える立場ではありましたが、自分も勉強になった一日となりました。

(2年普通科 澤田舞香)



Information

SSH課外活動は、理数科・普通科の別や学年を問わず本校生徒なら誰でも参加できるものがほとんどです。ぜひ、積極的に参加してください。

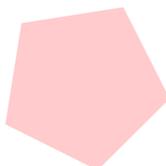
宮城県仙台第三高等学校

仙台市宮城野区鶴ヶ谷1-19

TEL 022(251)1246

FAX 022(251)1247

E-mail sensan@od.myswan.ed.jp



東北大学GLCとのZoomセッション

2020.9.30 (土) ~2学年生徒

●経験値UP

私たちは先日、SS英語表現の時間に東北大学の留学生の方々とおオンライン交流会を行いました。そこでは、課題研究の班ごとに分かれてお互いに英語で自己紹介したり、研究発表のアドバイスを受けたりしました。例年では留学生の方々が高三に来て交流会を行うそうですが、今年はコロナウイルス対策としてZoomでの開催になりました。オンライン上では通信が滞ったり、身振り手振りが伝わりにくかったりと、対面時とは異なった困難さがありました。チームワークにより乗り越えることができました。この貴重な体験が有意義なものになるよう、今後の活動に活かしたいと思います。

(2年理科 紺野 美星)

令和2年度第一回SS講演会

2020.10.1 (木) 全学年生徒

●素粒子と宇宙のつながり

KEKキャラバンに所属する、高エネルギー加速器研究機構の三原智教授から「宇宙のはじまり ビッグバンと加速器 ー素粒子物理学へのいざないー」というテーマでリモートでお話を頂きました。バナナからも放出されるニュートリノという素粒子の話からはじまり、状態や形が変わらない素粒子はできたばかりの頃の宇宙の情報も持っていることや、実際にある素粒子加速器や実験装置について話して頂きました。中でも印象に残ったのは、「最小単位である素粒子を知ることは最大単位である宇宙を知ることに繋がる」という先生がおっしゃった言葉です。宇宙について新たな観点を知ることができ、もっと宇宙に関して知りたいと思いました。初めてのリモート講義でしたが、先生にはとても分かりやすく教えていただきありがとうございました。

(2年理科 中島 清士郎)

●講演会を聴いて

今回、私は「宇宙のはじまり・ビッグバンと加速器」という講演を拝聴しました。講師の先生は、高エネルギー加速器研究機構の三原智教授でした。講演の内容は、バナナの話から始まりました。バナナにはカリウムが多く含まれているという話から、カリウムが崩壊した際に出てくるニュートリノの話へと進んでいきました。そして素粒子についての話になり、様々な種類の粒子、反粒子について解説して頂きました。

最後は、研究所での実験の方法や、装置などについて教えて頂きました。どれも非常に興味深いお話で、参加者はよく聞き入っていました。

また機会があれば、お話を聞きに行きたいです。

(1年理科 遠藤 隼介)



科学の甲子園

2020.10.31 (木) 全学年生徒

●科学の甲子園での学び

10月31日に私を含めた14人が2チームに分かれて科学の甲子園に参加した。今年は、感染症対策の観点から規模を縮小して筆記試験と実技試験のみを行った。筆記試験では、物理、化学、生物、地学に加え数学と情報の計6科目にチーム内から6人選出して協力しながら取り組んだ。難易度の高い問題ばかりだったがお互いに相談し合い、着実に問題を解き進めていくことができた。実技試験では、飛距離・高度・正確性の三つの観点で投石機をチームごとに6機を各自で作製した。私のチームは、高度の観点で1位タイを取ることができた。今回の行事を通して新しい知識、固定観念に囚われない柔軟な思考を得ることができ、そしてなにより、絆をより強固なものにできた。

(1年理科 菅原冬羽雅)

●初めての大会出場

10月31日に、僕は科学の甲子園に出場してきました。例年は、大会の前に課題があるそうなのですが、コロナの関係で、当日の試験のみになりました。試験には筆記と実技の2つの科目があり、その中で筆記は、物理・化学・生物・地学・数学・情報の6科目を分担して解くというものです。僕は化学を担当しましたが、かなり難しく、とても大変でした。実技は、10本の割り箸と30本の輪ゴムとスプーンから高性能投石機を作るというユニークな問題で、とてもワクワクしました。1人1台作るのですが、1人1人が作る投石機が違って面白いなと思いました。この大会では、チームワークの大切さと、1人1人それぞれの独創的な考え方を知ることができ、いい経験になりました。

(1年普通科 安部莉陽人)

次号では、11月7日(土)に開催されましたGS フェスタの特集をします！